

学校教育目標との関連

		教育目標		
知	かしこく	意欲的に学ぶ子	よく考え表現する子	重点目標
徳	あたたかく	仲間と共に成長する子	全ての命を大切にする子	
体	つよく	健康でたくましい子	目標をもってやりぬく子	

児童の実態

(1) 児童アンケートより

「自分の意見や考えを發表することは大切であると思う」と回答している児童は90%以上いる。しかし、「自分の意見や考えを發表することができる」と回答している児童は75%に満たない。「文章を書くことが好きではない」と回答している児童が25%以上いることから、主体的に自分の意見や考えを表現できる児童の育成を図ることが本校の課題である。

(2) 学力調査より

4月に第6学年を対象に行った全国学力調査「国語B」の正答率は、選択問題が76.5%だったのに対して、記述問題は39.9%であった。分析の結果、本校の児童は知識の活用力、文章に書く力に課題があることが分かった。

1 すべての授業において年間を通して取り組む授業改善の視点

～これまでの校内研究の取り組みを生かして～

(1) 問題解決的な学習（H26年度校内研究）

児童全員が、一単位時間の授業を通して学習に対する充実感や達成感を味わうことのできる授業を目指す。そのために、児童の実態に適応する明確な課題と活動内容を設定していく。

〈具体的な実践例〉

- ・学習問題を児童自身に考えさせたり、めあてに対して必然性のある活動を取り入れたりすることで、児童主体の授業作りを実践する。
- ・単元の学習計画表や自分のノートを活用させる習慣を定着させることで、見通しをもって自ら学習に取り組んだり、既習事項を活用しながら解決したりできるようにする。
- ・学習問題を追究する段階では、ペアや小グループでの活動を取り入れることで、自分と友達の考えの相違点に気付いたり、自分の考えを深めたりすることができるようにする。
- ・一単位時間の終末には、めあてに対する振り返りの時間を確保し、自分が学習したことやできるようになったことを実感させることで、充実感や達成感を味わえるようにする。

(2) インクルーシブ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習（H27・28年度校内研究）

全ての子供にとって「分かる・できる」「楽しい」授業を目指す。そのために、児童理解を徹底し、全体指導の中で一人一人に応じた支援をしていくことを常に意識して授業を実践していく。

〈インクルーシブの視点〉

学習意欲の向上の工夫（学習上の困難を克服するための配慮） 自信を持たせる工夫（心理面の配慮）

〈本校のユニバーサルデザインの定義〉

- 焦点化…授業のねらいに合っためあてと活動を設定し、児童に思考させる視点を明確にすることで、ねらいを達成できるようにする。
- 視覚化…資料や具体物を活用したり言葉を見える化したりすることで、確かな理解のもとで思考させられるようにする。
- 共有化…児童同士の関わり合いを通して共通点や相違点に気付かせ、自分の考えを深められるようにする。

〈ユニバーサルデザインの手立て〉

- ・環境の工夫…落ち着いた教室環境、見やすい掲示物など
- ・活動の工夫…効果的なペア、グループ学習など
- ・教材の工夫…ヒントカード、視覚教材の効果的活用など
- ・評価の工夫…児童に対する明確な到達目標の提示、評価方法の明確化など
- ・情報伝達の工夫…構造的な板書、ハンドサインなど

2 校内研究を主軸とした授業改善プラン

研究主題

意欲的に学び、よく考え表現する子供の育成
書く力を育てる指導を通して

主題設定の理由

学校は学びの場であり、その主体は子供である。子供は学習や生活など、様々な教育活動に主体的に関わりながら目標達成や課題解決に向けて活動し、生きるために必要な資質・能力（生きる力）を身に付けていく。

本校では、生きる力として学習指導要領に示された「未来を切り拓くために必要な資質・能力」を教育目標（つよく・かしこく・あたたかく）の育てたい子供の姿とし、全ての教育活動において子供の主体性を生かした学校づくりを進めている。

本年度は、学習指導要領の改訂の主旨を踏まえ、教育目標「かしこく」（意欲的に学ぶ子・よく考え表現する子）を重点目標とするとともに、目指す子供の姿を研究主題とし、その具現化を図る。また、本校の児童の実態や教員のニーズに基づき、国語科における書く力を育てることを中心に研究を進め、研究主題に迫ることとした。

研究仮説

書く力を育てるためには、国語科においては書く力の要素である「意欲」「技能」を高めたり「考え」もったりする具体的な手立てが必要である。そして、国語科で習得した力を、国語科の他の単元や他教科等の学習で活かしたり広げたりしながら活用し、成功体験を積み重ねることにより、書く力が育つであろう。

目指す児童像

低学年	中学年	高学年
楽しく考え表現する子 自分の考えを自分なりの方法で 楽しく表現することができる児童	自分から進んで考え表現する子 進んで考えをもち、相手を意識して 表現することができる児童	主体的に考え表現する子 よりよい考えをもち、主体的 に表現することができる児童

研究内容

今年度は、昨年度の「国語科における書く力を育てる指導」について、その手立ての有効性を確かめるとともに、「**国語科と他教科等を関連付けた指導**」の手立てについて研究を進める。

そして、3年間の研究と研究発表会を通して得た成果を次年度以降の教育活動に活かし、教育目標の具現化につなげていく。

